

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
37

振興協議会だより

〔発行日〕 令和元年6月27日
〔発行〕 苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕 025-765-1600



第5回ガイド認定式が行われました



4月21日、津南町総合センターの職業指導室において、第5回ガイド認定証授与式を行いました。

3月に行われたガイド認定検定において7名が合格し、4名が認定証授与式に参加しました。厳粛な雰囲気の中で、桑原悠苗場山麓ジオパーク振興協議会長から認定証を授与していただきました。

今回は、受検者7名全員が合格し、20代・30代の参加者がありました。さらに、ラフティングや登山、写真撮影など野外活

動の指導者の参加もありました。

苗場山麓ジオパークガイドの会の会員数は、着実に増加しており、現在70名になっています。それにともない、ガイドのための研修が一層必要になってきました。そこで、令和元年度は、従前年3回のガイド研修を8回に増やさせていただきました。ジオパークガイドの皆さんが、主体的に研修を進めていくようになればと期待しております。ジオパークに関する研究は、常に進化しています。ガイドの皆さんは、ジオパークを取り巻く最新の情報を是非知っていただきたいと考えています。



令和元年度 総会が開催されました



6月7日、津南町役場大会議室において令和元年度苗場山麓ジオパーク振興協議会総会が開催されました。

平成30年度活動と決算報告を受け、新年度の活動計画とそれを裏付ける予算案が審議され、無事承認を得ました。

協議会委員からは津南町物産館駐車場に設置された看板の裏（国道から見える面）の活用について提案を頂きました。また、ジオパーク域における携帯電話の非交信

域を調べ明示すること、さらに非交信域における携帯電話各社への要望、設置までの改善計画の立案が課題として提案されました。その他にも、本地域をシンボライズする火焰型土器のミニチュアレプリカを作り、各家の玄関口に飾り、誇りを伝えたらどうかという意見も出されました。

すでに令和4年の再審査に向かい、改善点を踏まえた計画的な検討協議を重ね邁進したいと考えています。





津南小学校 令和元年度の活動紹介

3年生の活動

毎年、津南小学校3年生は、「津南町のお宝探し」と題して、津南町の様々な施設や魅力を見て回る地域学習を展開しています。

5月17日、農と縄文の体験実習館を訪れ、施設の様子やジオパークについて学習を行いました。

そして、5月30日には、川の展望台と空の展望台を訪れ、そこから見える津南町の様子や河岸段丘を観察しました。そして、さらに丘陵を巡り、かつて海であったことを示す貝の化石が含まれる地層の観察をしたり、かつて垂炭を採掘していた樽田炭鉱についても学んだりしました。最後に津南駅など町内を見て回りました。これからも、年間を通して、ジオサイトを巡る学習が展開される予定です。



4年生の活動

今年の津南小学校4年生の活動は「きらめき学年 きらめきレンジャー水の郷 津南で～遊びたい 知りたい 伝えたい～」をコンセプトとし、「川」をテーマにした活動をしています。

1回目は5月29日に旧中津小学校裏の船津川で行いました。2回目は6月11日に、割野の浄水施設裏で行いました。両日とも、船津川にいる生き物と水質の調査を行いました。1回目の調査では、大面ビオトープ横にある湧水も調査しました。子どもたちは「これは何ですか?」と生き物を捕まえるたびに聞いて、終盤には名前を覚えていました。2回目は、船津川と信濃川の合流地を見学し、生物調査中、「クロカワ虫を捕まえるのが今日の目標」という子がいて驚きました。



苗場山麓ジオパークをテーマにした夏休み自由研究を募集します！

苗場山麓ジオパークでは、小学生・中学生を対象として、苗場山麓ジオパークを対象とした自由研究を募集いたします。苗場山麓ジオパークをテーマとしたもので、内容は問いません。

応募者全員に参加賞をお渡しする予定です。詳細は苗場山麓ジオパークのホームページやチラシ等でお知らせしていきます。

ぜひとも、今年の夏休みは、苗場山麓ジオパークをテーマとした自由研究をしてみませんか？



全国研修会in銚子に参加しました

5月28日～29日、1泊2日で千葉県銚子市にある銚子ジオパークにおいて全国研修を受けてきました。現在44カ所、全国に散在するジオパークの事務局長を中心とした参加者による研修会でした。これというテーマはなく、ランダムに6カ所に分かれ、用意されていたカードを代表が引き、そこに書いてあるテーマで語りたい方々が集まり話し合いを進めるものでした。

私は、「ロゴ活用」「商品開発」「体制持続」「SDGs」の4テーマに参加しました。一番感銘したのは、まったくジオパークに興味のない職員であったが、マイクロプラスチックの問題と環境問題を交差させSDGs的に解決するプログラムを児童達と進める事で、ジオパーク活動の本質としての教育的意義を知り、今は「ジオパーク活動が未来を造る」と思うようになったという発言でした。

また、商品開発では、ライセンスを与えるよりもライセンスを頂いた方々のメリットは何かという設問があり、その意味を学びました。ライセンスを貰った業者は、シールを貼るだけではなく、事務局と共に物語を背景にパッケージデザインを進め、そこにロゴ印刷する。その開発費の一部を助成するというものでした。ジオパーク研修は、地域づくりを念頭に多角的な課題を取り上げ、多くの方々の意見を聴くことができる場です。皆様も研修会に参加しましょう。



認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

恩田朝夫さん



苗場山の山開き 登山レポート（ガイド No. 8 恩田朝夫）

5月中旬から仕事で妙法育成牧場へ2週間通い、クジラのような山体を毎日眺め、登る意欲が湧きあがりました。

6月1日、山開きの神事に触れ、お祓いを承りました。山開きは、タケノコ汁のサービスがあり美味しかったです。保存民家近くのユモトマユミが満開でした。お天気も上々で、登山日和となりました。

この度の登山は、主要登山道の小赤沢コース三合目駐車場から出発しました。駐車場にある県外からのお客様の車両は15台、皆さん思い思いにクジラの背中を歩いているであろうなと思いを馳せました。

登山届を提出し、12時に三合目駐車場を出発しました。今回の登山の目標地点は六合目です。意欲は十分でしたが老体なのでのんびり歩いていきました。早速、トリアシショウマやダイヤモンドソウ、クロベを跨いで四合目に辿りつきました。周囲の山毛櫨（ブナ）に混じり、ムラサキヤシオ、タムシバ、オオカメノキも競って開花していました。シラビソ帯の林床では、マイヅルソウやミツバオオレンの蕾が膨らんでいました。残雪を辿り五合目へ、更に足形頼りに、目標の六合目に13時



前倉のトドから見た苗場山

30分に到着しました。時間に余裕があったので、ゆっくりおにぎりをいただきました。下山者を見るとアイゼン、ピッケルの出で立ちでした。この時期、すべり止めの携帯を忘れずに、要所では装着しましょう。霧の発生により野沢方面の展望は得られず、芽吹き前のシラビソ林の樹形を楽しみました。気温は18℃で、風は殆どなく、残雪はシラビソ林で1メートルでした。

50年前の苗場登山は、飯山線で川口経由湯沢駅行きのバスに乗り八木沢停留所で下車し、そこから徒歩で三俣集落、祓川を辿り、和田小屋に泊り狭い屋根裏で就寝しました。この体験は忘れられません。早朝出発で黙々と歩き、花も景色も楽しむ余裕もなく、只々歩くのが精いっぱいでした。下山も小赤沢のバスの停留所まで歩きました。55年前の出来事でした。

現在は林道の完成により日帰り登山も可能となり、日本百名山登山ブームと相まって登山者の増加も著しくなってきました。

皆で登山とジオパークサイト巡りを楽しみましょう。

30万年前、大噴火で出現したクジラのような山体、7千年前から高層湿原の形成が始まり多くの池塘が生まれた天空の楽園に登ろう！



ムラサキヤシオ



オオカメノキ



日本ジオパーク運営会議・地球惑星科学連合大会に出席しました

毎年、千葉県の幕張メッセで地球惑星科学(地形・地質や気象、宇宙等を調べる学問)の大会、『地球惑星科学連合大会』が開催されています。日本ジオパーク委員会ではその大会の日程に合わせ、運営会議や総会を開催したり、大会自体で発表を設けたりしています。

今年は、5月25日から27日の期間で様々な会議やイベントが開催され、出席をしてきました。今回の運営会議では日本のジオパーク全体の運営に関すること、企業との提携、今年度の全国大会の予定(今年は大分県で開催)などが話し合われたり、ユネスコ世界認定への推薦や国内新認定の地域による発表の審査などが行われました。地球惑星科学連合大会の発表では、各ジオパークでのいろいろな取り組みを見聞きすることができ、大変勉強になりました。

ご興味のある方は、ぜひ一度運営会議だけでも参加してみませんか?いろいろな地域の方が来て、いろいろな話が聞けますので、世界が広がるかもしれませんよ。



突撃しよう!となりのジオ便り～下仁田ジオパークからこんにちは～

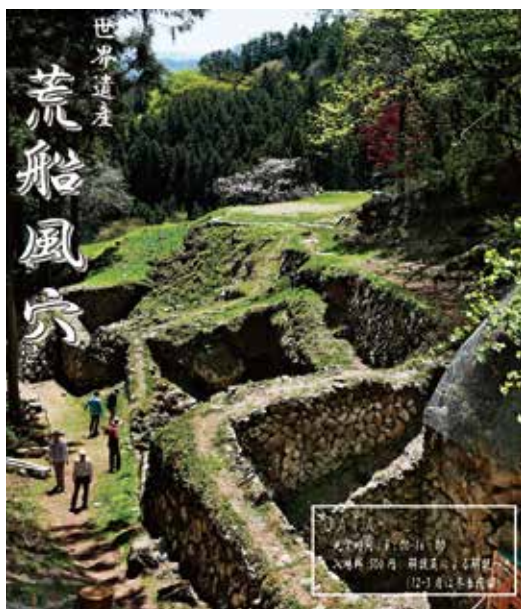
群馬県南西部に位置する下仁田ジオパークは、下仁田町1町で構成されています。自然豊かで古くから上州と信州、甲州を結ぶ要衝に位置し、中山道脇住還(下仁田道)により物流や文化の交流が盛んな場所でした。

下仁田ジオパークには地殻変動で地層が天地逆転しているサイトや大昔の火山活動の痕跡など様々なダイナミックな大地の変動を感じることが出来ます。そんな生い立ちを持つ大地が作ってきた自然の中でこの地域の人達が工夫を重ね大地とともに暮らしてきたストーリーがたくさんあります。その中の見どころの1つを今日をご紹介します。



苗場山麓ジオパークの「山伏山の風穴」同様、下仁田ジオパークの「荒船風穴」もまた、養蚕に利用されていました。「荒船風穴」は、明治38年から始まった蚕種保管のための自然の冷風を利用した日本最大の蚕種貯蔵施設です。

岩の隙間から吹き出す冷風を利用した蚕種(蚕の卵)の貯蔵施設で、冷蔵保管により卵がかえる時期を調整することで、年に複数回の養蚕が可能となり、繭の増産に大きく貢献し、日本全国その他、朝鮮半島からも保管・出荷していました。



富国強兵の時代の日本の一大産業を大きく支えた施設として、富岡製糸場と共に世界文化遺産に登録されました。

風穴を作る岩塊は、(溶岩台地でできた山頂の平らな荒船山などと同様、)今から1200万～700万年前の火山活動によるものです。火山による硬い岩が、岩と岩の隙間のある崩落岩塊層を作り、その隙間から冷気が吹きだしています。

大地とこの地域の人のつながりを感じられるジオパークの見どころでもあります。

昨年10月、風穴近くの見学者広場に完成した「風穴冷風体験館」では、自然の岩の隙間から吹き出す冷風が体験できますので、「天然の冷蔵庫」が体感できます!

風穴には常時ガイドがおりますので、ガイドの話に耳を傾けながら冷気を感じて下さい。

土日祝日には駐車場から風穴を結ぶシャトルバスが通行しますのでぜひご利用下さい。